

ごとう通信

第 89 号

平成 20 年 5 月 1 日

先日、薄手のシャツを羽織り、サン
グラスをかけて訪問に行ってきた。今年もついにこのシーズンが来てくれました。僕たちのように外回りが多い人間にとって季節は重要です。

さて、先月から後期高齢者医療制度というものが始まってしまいました。突然「長寿医療制度」などと言い換えたりしていますが、そのドタバタぶりは皆さんがよくご存知の通りです。制度が施行される前、個人的には二つの感想を持っていました。「これだけ医療費が国の経済を切迫しているから仕方ないかも」という諦めと、「国民の皆が医療費に関心を持つ

ことで無駄な医療を抑制するかもしれない」という淡い期待です。しかし、あるシーンを見てからその考えは変わりました。巣鴨の高齢者が涙を流して反対を訴えている姿でした。本当にショツキングなシーンでした。

以前、あるカウンセラーの講演を聞いた時の話です。とてもユニークな方で講演は笑いの渦だったのですが、次のようなことを話してくれました。もし十代の若者が悩んでいたら「二十歳になって大人になったら良いことあるんだよ」、二十代の人悩んでいたら「本当の大人は三十歳からだよ」、三十代が悩んでいたら「四十歳になれば経験も立場も付いてきて自由になれるぞ」、四十代の人悩んでいたら……と。やはり、将来に希望が見えるからこそ頑張れると

いうことでしょうか。

さあ、今回の後期高齢者医療制度、お金の問題も大きいと思いますが、高齢者の方が涙を流されている姿を見てどれほどの若い人たちが希望を失ったでしょうか。日本にとって大きな損失になったのではないのでしょうか。

若い時には多少大変だけど高齢になれば安心できるといった雰囲気は欲しいものです。



モンスター患者

先月は「ロボット患者」という話題でしたが、今回は「モンスター患者」